

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------|---|-------|--|
| ・理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | 「大切に思っていること」として、ホーム独自の理念を玄関前に掲示し、各自が理解し日々のケアに役立っている。 |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | 理念を共有し、毎月の例会や、毎日の申し送り等を通じ、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | | 風見鶏らしさ、大切に思っていることを運営推進会議や、ホームからのお便り等を通じ、理解してもらえるよう取り組んでいる。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている | | 理事長、管理者、他の職員が地域の中で生活しているので、常に地域の中で育てていただいている意識があり、声を掛けていただいたりしている。 散歩の際の挨拶など、日常的な付き合いができるよう努めている。 |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | 地域のコーラスグループ、郷土の学習会、お茶の間、お祭りなど誘ってくださるので、その日の入居者の状態を見て参加している。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域の行事や、コーラスグループの会に参加することで、地域の高齢者との関わりを持ち、できることはないか模索中である。 | | 認知症の方を抱えている地域のご家族との交流を計画していきたい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価をする事により、日々の生活をもう一度見直し、サービスの質の向上に繋がるよう努力したり、評価していただいた事は前向きに捉え、具体的な改善に取り組んでいる。 | | 利用者が日々の生活を快適に過ごせる事を大切に取り組んでいる。 |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | サービスの実態や、評価への取り組み等を報告。ホーム独自のらしさをアピールし、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | | ご家族の出席率が低い事が今後の課題である。 |
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域包括支援センターの方と連絡を取ったり、又、区役所へ行った際にはホームの状況を知らせるなど、サービスの向上に取り組んでいる。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 現在、11月に研修会に参加予定。過去、成年後見制度を利用された方もいたが、今後、個々の必要性も含めて必要な方には活用できるよう支援していきたいと思っている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎月の例会、日々の申し送りなどで入居者間の口論、暴言、職員間の精神的、肉体的な苦痛、しんどさの共有など、話しをする機会を設け、防止に努めている。 | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>契約成立後も面会時等、疑問点を尋ねたり、理解、納得が得られるよう努力している。又、解約時も同様に説明するよう努めている。</p> | |
| 13 | <p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>日常的に意見を言いやすい環境になっているが、運営推進会議にも出ていただき、自由に発言していただき、日々のケアにも反映させている。</p> | <p>10月より、「ついたち会議」という会を設け、その月の予定を知らせたり、入居者の意見を聞く機会を設けている。</p> |
| 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>毎月の請求書と一緒に、入居者一人ひとりの暮らしぶりや、つぶやきなど、手書きで伝えている。又、内容によりお便りのようにして報告する事もある。</p> | |
| 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>玄関に意見箱を設置。又、外部の窓口については一覧にして家族へ知らせ、家族の面会時には必ず、管理者、ホーム長が対応し、さりげない苦情、要望を聞いている。</p> | |
| 16 | <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>月1回の例会や、その他随時意見や提案を聞く機会を設け反映させている。</p> | |
| 17 | <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>勤務の調整については可能な限り行い、柔軟な対応ができるようにしている。</p> | |
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>離職を最小限に抑える努力をし、利用者にはきちんと説明をしたりするなど、ダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>職員には、相談しやすい、されやすい環境になっている。</p> |
| 18-2 | <p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p> | <p>各種マニュアルは整備されているが、これが全てではなく、見直しが必要な場合は適宜行うようにしている。</p> | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|---|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>研修は、自己研鑽に努めることと、技術の向上、自己のレベルアップとして必要であると捉え、順番に参加している。又、管理者、ホーム長、職員がケアの質を高める事を常に念頭に置き、ケアしながら気付き、確認し合っている。</p> | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>地域のグループホームと情報交換したり、研修に行かせていただくなど、サービス向上に繋がる取り組みを行っている。</p> | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>毎月の例会の後の飲み会や、忘年会など、その他随時ストレス発散の場を設けている。又、休憩は必ずホームの外でとるような環境にしている。</p> | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>管理者は勤務状況を把握し、例会には必ず出席し、向上心を持って働けるよう努めている。</p> | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>信頼の構築に努め、まず傾聴し、本人、ご家族が何を一番困り、何をしたいのか、どのような生活をされてきたのかを受け止める努力をしている。</p> | |
| 24 | <p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>入居希望や、見学希望の連絡をいただいた所から関係が始まっていると考え、相談に応じている。又、利用に至った場合は面会、その他電話等で相談を受けたり、受け止める努力をしている。</p> | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|--|------|---|
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ホームとしてできる事や、他のグループホームや、その他の機関に委ねた方がいい事など、相談の内容により、対応するよう心掛けている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ケースによるが、本人、ご家族の状況など考慮して利用できるよう努めている。 | | 入居時、本人の馴染みの品を持ち込んでいただいたり、入居者同志の繋がりを大切にしている。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日常生活の中での会話や、軽作業、団らんなど様々な場面を共に過ごし、無理せず、楽せず、我慢せず、何でも話し合え、支えあう関係を築いていけるよう努めている。 | | 昔、活躍されていた頃の事や、その人の歴史から様々な事を学んだり、調理でも落ちていない腕に助けられたり教えていただいたりしている。 |
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | できる限り、ご家族の方とホームでの様子などを共有するようにし、時には相談したり、過去の情報を教えていただくなど、三者の関係を大切にするようにしている。 | | 食事会には大勢のご家族の方に来ていただいたり、新ホームの引越しの際にも、多くのご家族の方に来ていただくなど、様々な場面で支えていただいている。 |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入居前に、どのような趣味、暮らしぶりをされていたのかなど、ホームでの生活の楽しみやはりに繋がる事をご家族から話していただくなど、個々の状況に応じ良い関係が保たれるよう支援している。 | | |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人の面会、馴染みの美容室の方の訪問、ハガキ、手紙、電話の利用など、関係が途切れないよう支援している。 | | 時には多目的ルームで親族の方と食事を共にし、水入らずの時間を過ごされる方もいる。 |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 仲の良い方同士、又は職員を介して利用者同士が関わり合うなど、日々の暮らしで自然に支え合っている。又、職員も同様に支えられている事を自覚できるよう日々感謝の心で接するよう努めている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|--|------|--|
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退居された方にも郵便物を届けたり、お見舞いに行ったり、他施設への訪問に行くなど、ホームとしてできることは行い、それまでのお付き合いも大切にしている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々の希望、意向の把握に努め、一人ひとりの行動、表情を観察し自主性を引き出すケアを心掛けるようにしている。困難な場合でも前向きに対応するようにしている。 | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族、その他の親族、友人、サービス事業所の方などから情報を得て、これまでの経過等の把握に努めている。 | | 本人が一番輝いていた当時の記録(アルバム、本、楽器など)からコミュニケーションの話題を作り、ケアに活かしている。 |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 質の良い日中の活動は、良い睡眠に繋がると思われるので、一日のリズムを整え、気持ち良く過ごされるよう努めている。 | | 個々の状況など、申し送り等を通じて職員に知らせるなどし、把握するよう努めている。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 日々の暮らしがより快適に、心地良く過ごせるよう、意見やアイデアを反映させるようにしている。 | | ご家族と話をする機会が少ない方もいるが、電話など、できる限り、管理者、ホーム長を中心に意向や困っている事、将来についてなど、話を聞くように努めている。日常的な会話から様々な意見を聞く事の方が多い。 |
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | なかなか三者が揃っての話し合いはできないものの、ご家族の意向や本人の状況に応じて作成するように努めている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|---|------|---|
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録や、介護経過など、情報を共有し実践、見直しに活かすようにしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族状況や本人の要望など、ホームの中でできる事は柔軟に対応するようにしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員、ボランティア等、必要に応じて協力しながら支援するようにしている。 | | 地域の駐在所の訪問、図書館の利用、消防署での救急法の講習、中学生の職場体験の受け入れなど。 |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 個々の状況に応じ、地域包括支援センターや他の事業者と連絡をとったり、話し合いをしている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議に出席していただき、相談、アドバイスをいただいている。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月1回、かかりつけ医に往診に来ていただいたり、その他、体調の変化や状況に応じ相談したり、往診していただいたりしている。 | | かかりつけ医以外の受診の際は、情報提供書を用意し、適切に医療を受けられるよう支援している。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|--|---|------|---|
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | ホームドクターに相談したり、本人の状況を報告するなど、適切な診断、治療を受けられるよう支援している。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | ホームドクターとその看護師に頼っており、往診時看護師に相談したり、入居者自ら看護師に質問したりしている。 | | その中間となる看護師はいないが必要なのか？又、どのように配置したらいいのか？現在の所予定なし。 |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 早期にホームへ戻れるよう、医療機関のスタッフとカンファレンスを行ったり、ホームにいても往診等で治療可能か、ホームドクターに相談したりするなど、連携に努めている。 | | |
| 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 面会時、重度化した場合や、ターミナルケアについて望んでおられる事の意味確認をし、本人、ご家族の意向をドクターに伝え、処置、対応等、一つ一つ確認し、関係者全員で方針を共有するようになってきた。 | | 過去、終末期をホームで迎えた方もいたが、全て個々のケースにより対応が異なる為、一つ一つ様々な事を確認しながら対応してきた。 |
| 48 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 個々の状況に応じ、できる事、できない事を見極め、ホームドクターと共にチームとして取り組んできた。又、今後も変化に応じて対応していこうと考えている。 | | |
| 49 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | ご家族、担当ケアマネ等、できる限り情報交換をしたり、訪問するなど、ダメージが最小限になるよう努めてきた。 | | 状況によっては、本人の話を傾聴するなど、少しでも落ち着いてくださるような対応を職員間でも検討してきた。 |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|--------------------------------------|
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 一人ひとりのそれまでの生活歴や誇りを大切にし、対応するように心掛けている。又、基本的には保証人の方のみの窓口としており、それ以外の方には特にプライバシーを損ねる話題は避けるようにしている。 | |
| 51 | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 本人の思いを表出させることは大切なことと捉え、小さな事でも自己決定していただいたり、個々に合わせて傾聴したり、話をする事を心掛けている。 | |
| 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の始まりは、天気のことを話題にされ、例えば、天気の良い日は洗濯日和と、デッキの方へ行かれるなど、その日の環境、入居者の会話を大切にしている。 | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | その方らしい身だしなみや、おしゃれができるよう支援し、ホームに美容師さんが定期的に来たり、又、昔から馴染みの美容師さんに来ていただいたりされる方もいる。 | 日々、お化粧品をしたり、マニキュアを希望される方には支援したりしている。 |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | メニューの要望を聞いたり、具材切り等の準備や片付けなど、入居者の負担にならないよう、できることは共に行うようにしている。 | |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒や、その他の飲み物、おやつ等、一緒に買い物に行った際に購入したり、個々の状況に合わせて支援している。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|------|---|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりの状態に合わせ無理の無いよう支援するようにしている。又、排泄パターンの把握の為、ホーム独自のチェック表を使っている。 | | ケア用品の使用についてもその方の様子や、状態を見て、職員間、ご家族と相談の上すすめるようにし、使用必要となっても、状態によりやめたりすることもある。 |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一人ひとりがゆったりと入浴できるように配慮し、体調や状況に応じ、できるだけ柔軟に対応するようにしている。 | | 平等に同じ回数で入浴していただいているが、発汗によりシャワー浴を行ったりもしている。 |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 一人ひとりの希望や様子を見て、昼食後の仮眠や、体を休める時間を作るなどしている。少しの休息でその後の動きが良くなったりされている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ホームの中での役割だけでなく、その方がそれまで過ごされてこられた中での役割や生活歴を大切に、楽しみや気晴らしの支援をしている。 | | 「これは自分の仕事」と言い、毎日その時間になると動いてくれる方や、同じ仕事をお願いしても、「上手にできませんが・・・。」と言ったり、又は、「これ私好きなんです。」と言う方など様々である。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々の希望や力に応じ、又は、ご家族の要望もふまえて、支援するようにしている。自身でお金を所持されている方もいたり、無くなると悪いからと預けられる方もいる。 | | 外食、お買い物など、自分で支払いの出来る方には行っていただいたりしている。 |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近所の散歩を中心に、本人の希望や様子を見ながら出掛けられるよう支援している。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 外食、花見、コンサート、買い物等、季節や個々の希望を聞くなどし、出掛けられるよう支援している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|------|--|
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて支援したり、時には、状況により働きかけて行っていただくなどの支援を無理の無いよう行っている。 | | 贈り物が届いた時など、個々の状態に合わせてハガキや電話などの支援を行っている。 |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 各フロアのリビングや自室、多目的ルームなどを利用していただき、少しでもゆったりと居心地良く過ごしていただけるよう心掛けている。 | | お茶は必ず用意するようにし、時には、食事をはさんでゆったりと面会に来て下さる方もいる。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | なぜ身体拘束をしないといけないのか？という事や、入居者の行動には必ず何らかのサインがあるという視点を忘れずに、ケアする事に取り組んでいる。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は施錠する事無く、鍵をかけないケアを行っている。又、居室には鍵は設置していない。 | | 職員同士が常にどの方がどこで過ごされているのか、さりげなく確認するようにしている。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 入居者の様子を把握し、職員間でも常に所在や様子などの情報を交換しながら、さりげなく安全に配慮するようにしている。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 一人ひとりの状態に応じて、物品の保管、管理を考えていくようにしている。 | | 化粧品やはさみなど、自室で管理されている方もいるが、訪問時にさりげなくチェックする時もある。 |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | マニュアルも作成しているが、個々の状態の変化に応じ、対応方法を申し送ったり、時には例会で話し合う事もある。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|---|------|--|
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 消防署で、普通救命講習を全職員が受講したり、個々の予測できる急変については、事前に主治医に指示をもらったりしている。 | | |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 運営推進会議で、地域の方と話をしたり、消防署の方から指導していただいたり、避難訓練も行っている。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 個々の状況に応じて、面会時に日常の暮らしぶりや、リスクについても話をしたり相談したりしている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | バイタルだけに頼らず、いつもと違う状態、様子の発見に努め、申し送りを通じ、情報を共有したり、何を様子観察するのか管理者を中心に考えるなど、早期発見、対応に努めている。 | | 状況により、ホームドクターに相談したり、往診依頼することもある。 |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋はいつでも見れるようになっており、特に重要な事は申し送っている。用法、用量、副作用だけでなく、禁止されている食べ物など、周知徹底するようにしている。 | | 他科受診の際は、服用中の薬を情報提供書で知らせたり、降圧剤服用中の方の中には、日々バイタル測定し、ドクターへの報告、減量となった方もいる。 |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 水分摂取や、食物繊維を含む食品を使うなど、飲食物の工夫や、起床時に毎日ラジオ体操を試みるなど、薬に頼らないよう取り組んでいる。 | | 起床時には水分を飲用する事を勧めた方については、それまで服用していた下剤を飲まなくても良くなった効果あり。現在下剤服用者は1名のみ。 |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後の口腔ケアは、声掛け、見守り、一部介助、全介助など、その方に応じた支援を心掛けている。 | | 歯科医師より、定期的な歯科検診や、口腔ケアのアドバイスをいただいたり、過去に、嚥下状態が悪化した方の対応方法を指導していただいたりした事もある。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|------|--|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や、食事時の様子、習慣など、検査簿に記入し、一人ひとりの把握に努めるようにしている。水分は食事以外にも入浴前後、おやつ時、読経、歌を唄った後など、十分に摂取していただけるよう支援している。 | | 体調の悪化時、ドクターの指示により、個別により細かく食事、水分量をチェックしたり、それについて指導、指示していただいた事もある。 |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | マニュアルを作成し、日頃から手洗いの励行、異常の早期発見、対応に努めるようにしている。又、それらに関する研修会等には積極的に参加し、新しい情報を得られるよう心掛けている。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理用具の定期的な消毒を行い、冷蔵庫の掃除や、食品調味料の賞味期限のチェック、新鮮な食材の使用と管理に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関周りは特に、施設ではなく、家庭的な雰囲気を大切にしたい配慮を行い、スロープ、手すり、ベンチを設置し、歩行困難な方や車イスの方も出入りしやすくなっている。 | | 玄関先には入居者が植えた花や、植物があり、夏にはミニトマトを収穫。ベンチで食べたり、大葉が食卓にのぼった事もあり。 |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間にさりげなく季節の草花を飾ったり、玄関の横のプランター、庭の草取りなど、緑、土、水と親しむ機会を作ったりしている。又、カーテンやブラインドで光の調節をしたり、テレビの音量にも気を配るようにしている。 | | |
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人で居るよりみんなと一緒にいい方、又はみんなと一緒により一人がいい方や、いい時など、リビング、談話コーナー、食堂、多目的ルームが思い思いに過ごせる空間となっている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|------|--|
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や、好みの物を持参していただいたり、思い出の品を飾るなど、少しでも居心地良く過ごせるよう配慮している。 | | 居室のカーテンは全て、本人の好きな色を選んでいただいたものである。又、何十年と使い込んだ鏡台を持参し、入居後補修して大切に使われている方もいる。 |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | トイレ、食堂、台所は特に換気や防臭に気を配り、温度調節は入居者の状況や外気温により、まめに行うようにしている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ、浴室、洗面所、廊下など、手すりを必要な場所につけ利用していただいている。又、個々の状況に応じ、階段、エレベーターの利用を考えたり、残存機能を使い、少しでも自立した生活が送れるよう配慮している。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 自分でやりたい、又はできる事は、上手下手関係無くできるだけ行っていただき、混乱や失敗は防ぐだけでなく、失敗しても大丈夫といった雰囲気になるよう配慮することもある。 | | 事前に分かる対応方法は職員間で統一したりしている。今年5月30日の現ホームへの引越し時には、落ち着かない様子も見られたが、今では居心地の良い場所を見つげられている。 |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | ベランダでは、洗濯干しや日なたぼっこの場となり、玄関先では植物を植えたり収穫を楽しんだりしている。又、ベランダ、玄関前のベンチは社会との接点となり、挨拶を交わしている。 | | |

| . サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----------------|--|-----------------------|--|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の | |
| | | 利用者の2/3くらいの | |
| | | 利用者の1/3くらいの | |
| | | ほとんど掴んでいない | |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある | |
| | | 数日に1回程度ある | |
| | | たまにある | |
| | | ほとんどない | |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と | |
| | | 家族の2/3くらいと | |
| | | 家族の1/3くらいと | |
| | | ほとんどできていない | |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように | |
| | | 数日に1回程度 | |
| | | たまに | |
| | | ほとんどない | |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている | |
| | | 少しずつ増えている | |
| | | あまり増えていない | |
| | | 全くいない | |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ほぼ全ての職員が | |
| | | 職員の2/3くらいが | |
| | | 職員の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が | |
| | | 家族等の2/3くらいが | |
| | | 家族等の1/3くらいが | |
| | | ほとんどできていない | |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・オープンして4年が過ぎ、入居の皆さんの体が思うように動かなくなり、感情のコントロールができなくなり、口論や様々な訴えはあるものの、常に職員は入居の皆さんに「大丈夫」と声を掛け、喜怒哀楽の怒の部分を表出されても大丈夫、無理しない、我慢しない環境を作っている事。
- ・日々の生活の主役は入居者であり、ご家族、職員はサポーターであるという軸を変えないこと。
- ・生きていて良かった体験をしていただけるケアを目指している事。
- ・施設での生活ではなく、ホームを家族と捉え、家庭的な雰囲気大切にしている事。
- ・職員間のチームワークが良く、体調を崩した時、急変時等、気軽に勤務変更できる事。